

産学が連携して食を通じた「地域のつながり」の機会の創出に資する事業

事業実績報告書

札幌国際大学・札幌国際大学短期大学部

【実施期間】

令和 5 年 9 月 25 日～令和 6 年 3 月 29 日

【実施概要】

本事業では、「札幌国際大学」が清田区に所在しており、指定避難所として活用された場合を想定して、多様な主体と連携しながら地域住民等へ震災が発生した際に役立つ情報の発信やコミュニティ機能強化、さらには本学学生の学びの機会や学生と地域住民など多様な世代が集う機会を創出した。

- 地域における自助・共助について地域住民と学生が共に学ぶ機会の提供
- 本学が指定避難所を想定した「CRUISE KITCHEN」を活用した炊き出し体験(カレー)
- 札幌伝統野菜「札幌大球」の P R と消費拡大に向けた取り組み
- 留学生と地域住民とのつながりの創出
- 清田地域の地形を学び地域住民と学生が共に清田の魅力を考える取り組み

全 3 回みちしるベフェスタ「食でつながる安心・安全な地域へ」を実施して、延べ 374 名参加
清田区在住の札幌市民等（幼児・小学生・中学生・高校生・高齢者・本学学生・本学教職員等、途中参加及び退席を含む）。

第1回みちしるベフェスタ「食でつながる安心・安全な地域へ」

日 時：令和5年11月11日（土）10:00～15:00

場 所：札幌国際大学（清田区清田4条1丁目4番1号）

2号館1階211教室 1号館・2号館前

参加者：基調講演・パネルディスカッション 50名

「地域における自助・共助について地域住民と学生が共に学ぶ機会の提供」

基調講演・パネルディスカッションの開催

挨拶：札幌国際大学 学長 蔵満 保幸

趣旨説明：札幌国際大学 地域・産学連携センター

基調講演「北海道で増える自然災害 知識と情報が地域を守る」

講師：気象予報士 防災士 札幌国際大学非常勤講師 菅井 貴子 氏

「災害ボランティアの取り組み」

講師：北海道社会福祉協議会 地域福祉部 市民活動推進課長 坂本 豊 氏

「観光と防災と食」講師：株式会社クールスター 代表取締役 高原 邦之 氏

パネルディスカッション：テーマ「食でつながる安心・安全な地域に向けて」



【基調講演 菅井氏】

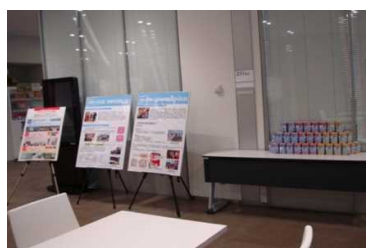


【パネルディスカッションの様子】

基調講演・パネルディスカッションでは、強靱な地域のつながりに向け、それぞれの専門的な立場から、避難所における活動の事例や観光業との連携等により、多様な主体が協力して生活の質が保たれるような対応が大切であり、地域の特性を知り、日頃からの備えや意識等の重要性を再認識する機会となった。

救缶鳥プロジェクト及び防災に関するパネル展の実施

本学は、株式会社パン・アキモトが開発した長期保存可能な世界初の「パンの缶詰」を日北自動車工業株式会社よりご提供頂き、災害時に備えて保管している、救缶鳥プロジェクト（非常食を備えることで、世界の飢餓救済の活動に参加）の紹介。北海道コカ・コーラボトリング株式会社にご協力頂き、災害の活動に関するパネル展示を行った。



【左：パネル展示の様子】 【右：救缶鳥プロジェクトのポスター】



アンケート結果から、基調講演・パネルディスカッションの企画は「大変良かった」「良かった」という回答があり、菅井氏の基調講演の内容に興味を持たれた方が多かった。また今後「北海道の冬の災害」「SDGsと観光との関係性」「防災対策」などの内容の要望があった。

本学を指定避難所に想定した「CRUISE KITCHEN」を活用した炊き出し体験（カレー）

【株式会社クールスター】と連携

株式会社クールスターの波佐氏に本学の講義にて企業の紹介や今回の事業の取り組みに関して意見交換や実施内容の調整を行い、学生のアイデアも取り入れながら実施に向けて準備を進めた。



株式会社クールスターの本格厨房設備（電気、水道、ガス完備）搭載の大型バス「CRUISE KITCHEN」を活用して、避難所での体と心に栄養を与え、食を楽しむことをテーマに防災への役割の強化に向けた取り組みを実施した。



【防災食を作っている様子】



【防災食を提供の様子】



【防災食（スパイスカレー）】

これまでの北海道防災総合訓練などの実績を活かし、災害ボランティアとして活動されている方や学生などからのアイデアを基に、持ち運びがしやすく、短時間で調理することができ、食中毒のリスクを抑え、地域の食材を活用することが可能など栄養バランスにも配慮した防災食（スパイスカレー）を限定 300 食提供して完食となった。

【防災食（スパイスカレー）基本的な原材料】 ・生姜 ・にんにく ・ブラックペッパー ・ターメリック ・ガラムマサラ
・クミンホール・クミンパウダー ・フライドオニオン ・ケチャップ ・無糖ヨーグルト ・オリーブ油 ・ミックス豆



【テント設営の様子】

開催前日に株式会社クールスターと学生等がテント及び椅子とテーブル、ストーブ等の搬入作業を行い、当日は地域住民も加わり設置作業を行った。しかし当日は強風のために急遽、敷地内に設

置した飲食スペースをすべて撤去して、安全優先の環境づくりに努めた。北海道の冬は降雪、夏は気温が高いことも想定され、本学が避難所になった場合には強風の影響にも配慮をする必要があることが今回の事業により実証できた。

札幌伝統野菜「札幌大球」の PR と消費拡大に向けた取り組み

10月24日（火）31日（火）札幌大球の収穫ボランティア

「札幌大球」は札幌の伝統野菜であり、一玉あたりの重量は8～20 kg、球径が40～50 cm程度と大型キャベツのため、収穫の負担が大きいことが課題に挙げられる。数年前より「札幌市農業協同組合」（以下 J A さっぽろ）及び「株式会社クールスター」と協働して、観光学部の学生等が「札幌大球」の収穫ボランティアを行い、本事業に「J A さっぽろ」より「札幌大球」を協賛いただいた。

10月26日（木）、11月1日（水）2日間「札幌大球」入り特別メニュー提供

本学の食堂にて委託先のシダックス株式会社と連携をして学生・教職員を対象に「札幌大球」を周知、賞味する機会を提供した。10月26日は「札幌大球」入り回鍋肉と野菜ラーメン、11月1日は「札幌大球」入り焼きそばと牡蠣ソース炒め ※「札幌大球」入り豚汁を食堂利用者へ提供。



【「札幌大球」収穫ボランティアの様子】



【札幌伝統野菜 PR ポスター】



【10月26日回鍋肉のメニュー】

「CRUISE KITCHEN」を活用した「札幌大球」入りお好み焼きの提供

【風月株式会社】【札幌市農業協同組合】【株式会社クールスター】と連携

清田区の地域住民や本学の学生等へ清田区で生産されている札幌伝統野菜「札幌大球」の消費拡大と「札幌大球」の継承することを目的として、「風月株式会社」とコラボした「札幌大球」を使用したオリジナルお好み焼きを提供した。



【お好み焼き作りの様子】



【オリジナルお好み焼き】



【お好み焼き PR ポスター】

11月1日に収穫した「札幌大球」をJ A さっぽろの倉庫に保管頂き、「風月株式会社」の担当者と本学の学生がアイディアを出し合い、札幌伝統野菜である「札幌黄（玉ねぎ）」や北海道産のホタテ、豚肉など北海道食材を使用した「札幌大球」入りお好み焼きを地域住民や本学学生などに限定300食提供して、完食となった。

当日は寒波が到来することが予想され急遽、北海道コカ・コーラボトリング株式会社の「いろはす」を使用した温かい「札幌黄」（札幌伝統野菜）のスープの準備を進めた。この日は、気温が低く、強風のために来場者は温かいスープを飲みながらカレーとお好み焼きの待ち時間を過ごした。



【避難食（スパイスカレー）・お好み焼き・スープ提供の様子】



【食べている様子】

本学のよさこいソーラン部の演舞の魅力を体感頂き、札幌国際大学探検ツアー等本学を知って頂く機会となった。



連携先企業へのヒヤリング内容

- ・今回の取り組みは、風月株式会社やこれまでも災害ボランティアを実施している方々と連携することができ、札幌国際大学での指定避難所としての防災に向けて、有益な時間であった。
- 今後、防災や災害に関わる業者が多数あるので、大学の授業の一環としてなどつながり広めていくことにより、災害活動に活かしていけるのではないかな。
- ・今回、「CRUISE KITCHEN」にて、お好み焼きを提供できたことは初めてであり、貴重な経験となった。皆さんの喜ぶ顔を見て嬉しい気持ちになった。今後災害地において、支援する際に役立つことを理解した。

学生・地域住民へのヒヤリング内容

- ・イベントは様々な企業が協働して成り立っており、様々な企業との連携やチームワークが必要となる。
- ・地域の知識や情報などを知ることにより、災害時のコミュニケーションがスムーズになり、防災につながる。
- ・非常事態だからこそ、料理を温かく・美味しい状態での提供や緊急であっても食べやすいものが望ましいなどニーズに応えることが必要であると感じた。

本学を指定避難所に想定した「CRUISE KITCHEN」を活用した炊き出し体験（カレー）と札幌伝統野菜「札幌大球」を使用したお好み焼きの提供では、天候状況に応じて提供方法や場所などを考慮

する必要がある。また災害時には地域の農産物の活用や子供から高齢者、留学生など多様な方々が利用するために、平時から企業、大学、地域住民等が協力することは安心・安全な避難所での対応につながると考えられる。

■第2回みちしるベフェスタ「食でつながる安心・安全な地域へ」

日 時：令和6年1月27日（土） 11:00～15:00

場 所：札幌国際大学（清田区清田4条1丁目4番1号）

2号館1階212・213教室

参加者：16名

本学には11ヶ国の留学生が在籍しており、本学のアジア諸国出身の教員や留学生の協力のもと、異文化理解の機会を提供した。



留学生と地域住民とのつながりの創出

本学の中国・ミャンマー・台湾・韓国出身の留学生や教員による、各国の食べ物や言葉、風習などに関するクイズやプレゼンテーションを行なった。アジア諸国の国でありながら、食文化など日本との文化の違いについて理解を深めた。



【ミャンマー出身学生によるミャンマー紹介】



【異文化交流の様子】



今回美味しく、楽しく異文化を体験するために、皮からつくる手作り水餃子や卵スープの作り方を台湾出身の陳先生から教わり、実際に地域住民と留学生と一緒に水餃子づくりに挑戦した。また、韓国出身の趙先生に韓国料理のチヂミ、ベトナム留学生にはベトナムのデザートであるチェーを作っていたいた。



【水餃子づくりの様子】



【手作り水餃子・卵スープ・チヂミ・チェー】



【料理を堪能している様子】

参加者が協力して一生懸命に作った水餃子やチヂミ、ベトナムチェーを堪能して、各国の食文化を体感した。各国の「いただきます」の発音の仕方などお互いに教え合いながら交流を図った。留学生と地域の方々が食事をしながら話をして、仲良くなり、現地で本場の料理を食べたい・観光に行きたいなど会話が盛り上がった。

参加者からは、「文化や言葉は国ごとに異なるが、料理などで協力するときにはお互い思いやりがあり、いいなあと感じました」「他の国の文化を学ぶ機会は少ないので貴重な経験となりました」「日本の新しい文化を学ぶ事ができ、異文化も学ぶ事ができて良かった」「ご飯を食べながら、楽しくお話ができて良かった」などの感想が聞かれた。

アンケート結果から、異文化理解や交流ができ、今回の企画は「大変良かった」「良かった」という回答があり、一緒に手作り餃子などをつくり、アジア料理を堪能しながらの交流は最も関心が高い内容であった。本学にはさまざまな国からの留学生が在籍しており、多様な文化を背景としていることから、お互いを知りあうことが肝要であり、今後、食文化交流など楽しく・相互理解につながる取り組みなどを継続することが重要であろう。

第3回みちしるベフェスタ「食でつながる安心・安全な地域へ」

日 時：令和6年2月8日（木） 13:00～16:15

場 所：清田区民センター2階 あしりべつ郷土館

（札幌市清田区清田1条2丁目5-35）

北海道コカ・コーラボトリング株式会社

（札幌市清田区清田1条1丁目2-1）

参加者：8名

講 師：「清田区の地形」 あしりべつ郷土館 了寛 紀明 氏

講 師：「清田区の地震被害 昔の地形から読み解く」

あしりべつ郷土館 川島 亮 氏



清田地域の地形を学び地域住民と学生が共に清田の魅力を考える取り組み

【あしりべつ郷土館委員会】【北海道コカ・コーラボトリング株式会社】と連携

清田区の地形や土地利用の変遷などの講義では、北海道胆振東部地震において、清田は宅地や道路、公園で大規模な地盤沈下が生じ、停電を含めて甚大な被災が見受けられた。その背景には清田には地理的に川筋（谷筋）があり現在、盛り土して宅地や道路、公園などにしていることが大規模な地盤沈下の一つの要因であり、地域の地形や地盤などの特徴を把握することは、防災にも役立つことを学んだ。



【了寛氏・川島氏 講義の様子】



【工場見学の様子】



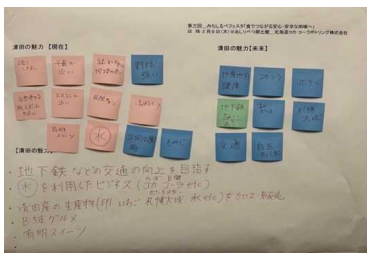
北海道コカ・コーラボトリング株式会社の工場見学・解説【本学のバスにて移動】

昭和39年に竣工された本社工場は、白旗山が水源であり、空港やフェリー等への交通アクセスが良いために清田区に所在、ペットボトルのリサイクルなど持続可能な実践的な取り組みを学んだ。

「清田の魅力」に関するワークショップ・発表

「清田区の魅力」のワークショップでは、下記のような現在ある地域資源を活用して、多面的な清田の魅力づくりに関しての提案等があった。

- ・清田の「水」資源を活用したビジネスの展開や「札幌大球」など地産地消の取り組み、清田産の農産物を加工・販売した商品の開発等、新たな魅力を期待する
- ・地下鉄などの交通の向上を目指すことにより、住み良い地域になるのではないか
- ・清田区には「よさこい」「きよフェス」「演劇」などの芸術活動が盛んであり、自然と共生できるような憩いの場、自然の中で清田スイーツを楽しめるような道の駅の創出など
- ・清田は優しい人が多い、まちづくりに積極的であるなどの意見もあり、若い人もまちづくりに積極的に参画して、地域が活性化をして住みやすい環境になることへの期待



【ワークショップの成果物】



【ワークショップの様子】

20代から80代までの幅広い年齢層が「清田区の魅力」について意見を出し合い、発表に向けて資料をまとめることにより、現在の清田の地域資源や魅力を活かしながら、新たな清田の価値を構築することにより、より快適な環境を目指すことができるのではないかなどの意見も聞かれた。

本事業が地域へもたらした波及効果

本事業が契機となり、地域住民より本学のイタリア留学生にイタリアの教育の現状についてお話を伺いたいと要望があった。そこで、イタリア留学生からイタリア教育について学ぶ機会を設け、日本教育などについても説明しながら、学生と地域住民が相互に学ぶ機会となった。さらに地域住民やロシアの学生等が本学博物館を訪れ、縄文世界遺産研究室の越田教授から縄文文化やアイヌ文化についてなどの解説をいただいた。



【札幌国際大学博物館見学の様子】

第3回みちしるべフェスタに参加頂いた、一関交通安全・防犯防災部長のお声掛けにより、2月18日に「清田区の地形と地震被害について」と題して了寛氏と川島氏が講師を務め、清田中央区町内連合会の会長や防災担当者などを対象として防災研修が実施された。このように町内会の方々が主体的に防災に向けて地形など地域について学び、震災が発生した際のコミュニティ機能強化、さらには地域住民の方への学びの機会の創出へとつながっている。

清田中央区町内連合会 防災研修会「清田区の地形と地震被害の関係」について学ぶ

開催日：2024年2月21日 | 最終更新日時：2024年2月21日 | カテゴリー：トピックス

清田中央区町内連合会は2月18日（日）、あしりべつ郷土館の協力を得て「清田区の地形と地震被害について」というテーマで防災研修会を清田中央総合会館（札幌市清田区清田5条3丁目）で実施しました。

あしりべつ郷土館の運営企画委員である了寛明氏（郷土史家）と川島亨氏（地域メディア「ひろまるる清田」主宰）の2人が講師を務め、町内会長や町内会の防災担当者ら20名近くが参加、2人の話を聴きました。

防災研修会の様子

【ひろまる清田 HP より一部抜粋 <https://hiromaaru.org/archives/45200>】

まとめ

本事業の趣旨に賛同いただき、連携先の企業、大学、地域住民、学生などが連携して、更には回を追うごとに新たな連携先も加わり【学ぶ】【交流する】【共に考える】機会の創出をした。

- 【学 ぶ】 ●地域における自助・共助〔第1回〕 ●清田地域の地形や土地利用の変遷〔第3回〕
【交流する】 ●本学が指定避難所を想定した「CRUISE KITCHEN」を活用した「札幌大球」お好み焼き・
防災食（スパイスカレー）〔第1回〕 ●留学生と地域住民とのつながり〔第2回〕
【共に考える】 ●清田の魅力を考える〔第3回〕 →地域住民や学生が主体的な取り組みへ

清田区には、子供から高齢者、留学生などが暮らしており、今回のように地域住民と学生、企業等の多様な主体が事業に参画することは、災害時などに安心して過ごすことができ、相互に協力することにもつながるであろう。

本事業が波及して、地域住民や学生が主体的に継続して学べるような体制づくりも大切であると考えます。今後、多様な世代との学びや交流を通して、共に考える「地域のつながり」の機会の創出や「札幌大球」の収穫ボランティアの実施、企業等と新たなメニュー開発などを検討していく予定である。

今回、札幌市の補助金により『産学が連携して食を通じた「地域のつながり」の機会の創出に資する事業』を実施することができ、連携先をはじめ協力頂いた清田中央地区町内会連合会・きよたスイーツ推進協議会、ご登壇・ご参加いただいた方々など多くの皆様のお力添えにより、全3回のみちしるベフェスタ「食でつながる安心・安全な地域へ」を開催できましたこと、厚く御礼申し上げます。